

# IMF サーベイ

IMF とアジア

## IMF、アジアとの相互関係の強化を図る

IMF サーベイ・オンライン

2010年6月19日



中国・深圳の工場: 世界危機でアジアが示した耐性により、グローバル化した世界で力強い民間部門の果たす役割が、改めて浮き彫りとなった。(写真: Newscom)

- 韓国での会議、アジアの世界危機からの回復を検証
- 今後のアジアを長期的な視点から考察
- IMFのアジアとの関係の強化に向けた施策も焦点に

国際通貨基金（IMF）は来月、韓国政府と共催で、世界経済危機からのアジアの急速な回復を検証する、ハイレベルの国際会議を韓国の大田市で開催する。

7月12日及び13日に渡り開催されるこの会議には、世界各国の要人が参加し、アジア経済のダイナミズム、並びに世界の政策構築の場で高まるアジアの役割について検証を行なう。アヌープ・シン IMF アジア太平洋局長は、IMF サーベイ・オンラインとのインタビューの中で、同会議では、アジアと IMF のパートナーシップ、並びに互いに学びあうという関係の強化も図られると述べた。

**IMF サーベイ・オンライン:** 7月12日・13日の両日、韓国政府と IMF は韓国の大田市で国際会議を開催します。この会議の主な目的と、そしてこのタイミングで開催する理由を教えてください。

**アヌープ・シン:** この会議の主な目的は、アジアと我々の関係を次のレベルに進め、アジアの世界危機からの目覚ましい回復から得た教訓を検証すると共に、今後のアジアを長期的な視点から考察することにあります。

想定されるトレンドでは、アジアは、今後約20年で、つまり2030年までに、G7を上回る世界最大の経済圏へと変貌を遂げると考えられます。このようなアジアの成長に伴い、アジア、国際社会、そして無論 IMF が建設的な連携を取ると共に、アジアの今後の急速な発展は、アジアを越えて利益をもたらすと認識することが重要だと考えています。G20の相互評価プロセスは、今年は韓国のリーダーシップの下で進められますが、同プロセスにおけるアジアの役割は、高まりを見せる国際協調の例の一つに過ぎません。

**IMF サーベイ・オンライン:** 会議には主にどのような人々が出席し、どのようなことが話し合われるのでしょうか。

**アヌープ・シン:** 今回の会議には、アジア太平洋地域の経済政策担当者や民間部門の要人、研究者、及び国際・地域機関のアジア専門家などが参加します。

会議の主要なテーマは、過去の教訓を率直且つ建設的に検証し、アジアの持続的経済成長を支える共通ビジョンの構築について協議する、アジアの経済運営における成功例を紹介し、他地域への教訓を明示する、アジアの経済成長モデル、今後の見通し、アジアの変化の世界経済への影響を検証する、そして、これらのプロセスにおける、IMFをはじめとする国際社会でのアジアの役割について議論する、以上4項目となっています。

**IMF サーベイ・オンライン:** アジアの IMF 加盟国及び IMF は、この会議に何を期待することが出来るでしょうか。

**アヌープ・シン:** この会議の主な目的のひとつは、アジアの官民双方の指導者の話に耳を傾け、アジアの未来、その展望と課題、そして世界への影響について幅広い議論を行なうことにあります。



アヌープ・シン局長:「想定されるトレンドでは、アジアは今後 20 年で、G7 を上回る世界最大の経済圏へと変貌を遂げると考えられる」(写真: IMF)

同時に、この会議は IMF にとり、これらの意見を検証すると同時に、アジアとの関係強化をどのように推し進め、アジアの将来のビジョンの実現に向けパートナーとして何をすることができるかを、これまで以上に広く伝える機会となるでしょう。

**IMF サーベイ・オンライン:** アジアとの関係の強化における、IMF の課題は何でしょうか。

**アヌープ・シン:** マルチラテラル及び地域別サーベイランス、国境を越えた相関関係、波及の問題、金融の結びつきや脆弱性などをこれまで以上に重要視し、また早期警戒演習へ取り組むなど、IMF の業務が拡大していることを、アジアの人々に理解してもらうことが主な課題のひとつです。これらの取り組みは、アジアではより認識されていると思われる、我々の技術支援やプログラムを補完するものですが、これらにおいても我々の役割やアクセスは大きく変化し拡大しています。

総じて、我々とアジアは互恵的なパートナーだと認識されることが重要です。アジアの政策担当者や研究者、そして専門家の見識を得ることは我々の利益となり、また我々はグローバルな視点を提供することで、アジアに貢献することができます。

このためには、我々はアジアでのプレゼンスを確立し、関係者へのアウトリーチ活動を拡大し、アジアとの関係をより積極的なものにしなければなりません。

**IMF サーベイ・オンライン:** 過去 10 年のアジアの経済発展は目覚ましいものです。IMF は、アジアの成功からどのような教訓を引き出すことができますか。

**アヌープ・シン:** 指摘の通り、アジアのこれまでの歩みは目覚ましいものです。アジアは世界の人口の約半分を抱え、その経済的役割は今後 G7 を超えるものとなるでしょう。この度の経済危機でアジアが示したリーダーシップは、過去 10 年で経済枠組みが強化されたことの証左だといえます。

実際、世界危機においてアジアが示した素晴らしい耐性は、堅固なマクロ経済枠組み、並びに企業・金融部門の健全なバランスシートの重要性を再確認するきっかけとなりました。また、グローバル化した世界における、健全な経済運営と力強い民間部門が果たす重要な役割が、改めて浮き彫りとなりました。さらに、アジアで急速に広がっている地域協力の重要性も再確認されることとなりましたが、IMF はこの面において連携を強化したいと考えています。